

JA全農ウィークリー

4
面

持続可能な農業に向けた全農の役割アピール

「AG/SUM2019」で講演や展示、どんぶり販売も(広報・調査部)

5面

TACパワーアップ大会2019開催



TACパワーアップ大会で全農会長賞を受賞した
JA新しいわてが事例発表(5面)



加工業務用の大型ブロッコリーを使い、セブンイレブンで発売された「国産ブロッコリーとキャベツのごま和えサラダ」(2面)



「AG/SUM2019」の講演で全農の取り組みを紹介する山崎周二理事長(4面)

- ## 2 「ナガノパープル」とえのきたけが 機能性表示食品に(長野県本部)

セブンイレブンで国産ブロッコリーの
サラダ発売(営業開発部)

日本フードサービス協会の商談会に出展
(営業開発部)

- ### 3 第3回和牛甲子園に向け勉強会を開催 (畜産総合対策部)

映えない、けどおいしい! 「地味弁」を体験
(米穀生産集荷対策部)

第10回ファーマーズ&
キッズフェスタ2019に出展
(耕種総合対策部TAC推進課)

- ## 6 JAズームイン(栃木:JAなすの)

- ## 7 青果情勢(園芸部)

- 8 「旬鮮倶楽部」2020年度
お申し込み受付中(くらし支援事業部)**

「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」
プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

かが・のと味自慢（JA全農いしかわ）

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!

「ナガノパープル」とえのきたけが機能性表示食品に

生鮮食品のブドウときのこでは全国初

長野県本部



「毎日グレープ(ナガノパープル)」 「長野県JA産えのきたけ」の商品名で届け出たパッケージデザインのみで、販売が認められる

信州大学・長野県との産学官連携の成果で、生鮮食品のブドウときのこが受理されたのは全国で初めてです。今後、血圧が高めの方の血圧を下げる機能のある成分GABAが含まれることを表示できます。

長野県本部は、県産のブドウ「ナガノパープル」とえのきたけを機能性食品として消費者庁に届け出を行っていたところ、このたび受理され、11月12日に記者発表を行いました。

News!

セブンイレブンで国産ブロッコリーのサラダ発売

業務用品種の生産振興が商品に結実

営業開発部

←花蕾直径16~18cm→
市場流通品：11~12cm



原料に使用される
大型ブロッコリー



セブンイレブンで発売された「国産ブロッコリーとキャベツのごま和えサラダ」

使用されるブロッコリーは市場流通品の倍程度の重量があり、生産者は単位面積当たりの収益を確保できます。また、選別の手間が省けるなどメリットがあります。

営業開発部は、加工業務用途の輸入品から国産への置き換えを目的に、大型ブロッコリーの生産振興を進めてきましたが、11月5日、セブンイレブンでこのブロッコリーを使ったサラダが発売されました。

販売地域は関東、甲信越、富山、静岡、近畿、中国、四国、九州です。

News!

日本フードサービス協会の商談会に出展

外食・中食企業に向け国産農畜産物の魅力提案

営業開発部



時短商品を中心にPRした全農のブース

当日は1972人が来場。全農ブースでは、国産農畜産物をカット加工・冷凍した時短商品などを中心に展示・試食を行い、昨年の倍近い120人・80社に素材のおいしさや、半調理加工品の便利さをPRすることができました。今後、全農グループで連携し、外食・中食企業に向けた営業を展開します。

全農は11月12日、東京都内で開かれた日本フードサービス協会（JFS）主催の「JFSフードサービスバイヤーズ商談会2019」に全農グループ会社9社と共同出展しました。



第3回和牛甲子園に向け勉強会を開催

出場校の先生を対象に、牛を見ながら情報交換も

畜産総合対策部



牛舎で牛を見ながら情報交換する参加者(栃木県立鹿沼南高校で)

会場は、それぞれ和牛甲子園に出場する栃木県立鹿沼南高校、岐阜県立飛騨高山高校、島根県立出雲農林高校、鹿児島県立市来農芸高校の4校。県内や近県の出場校から先生や関係者が集まり、和牛飼養管理に関わる情報交換などを行いました。

畜産総合対策部は、来年1月の第3回和牛甲子園に向け、10月から11月にかけて、出場校の先生や関係者を対象とした勉強会「和牛アカデミー」を全国4カ所で開きました。



映えない、けどおいしい! 「地味弁」を体験

「地味弁.com」のレシピ提供者招きイベント

米穀生産集荷対策部

多くの参加者が地味弁を体験



地味弁.comはこちら
<https://jimiben.com/>



地味弁
.com
JIMIBEN.COM

全農は米の消費拡大を目的に、今年度から見た目よりおいしさを追求したお弁当「地味弁」の提案を行っています。
イベントでは、Webサイト「地味弁.com」のレシピ提供者の1人であるツレヅレハナコさんを招き、調理実演とお弁当詰めのワークショップを行いました。参加者は、ご飯を使ったおいしく手軽な「地味弁」の世界に魅了されていました。

全農は11月16日、東京都内で「地味弁」の体験イベントを開きました。



都会の子どもたちに農業の魅力を紹介

第10回ファーマーズ&キッズフェスタ2019に出展

耕種総合対策部TAC推進課

野菜詰め放題などで都会の子どもたちに農業の魅力を発信



ブースでは、子どもたちに野菜を身近に感じてもらうよう野菜の詰め放題と野菜の折り紙ワークショップを行い、多くの親子連れのお客さまに楽しんでいただきました。TAC推進課はこれからも、生産者と生活者をつなぐイベントを実施していきます。

第10回ファーマーズ&キッズフェスタ2019が11月9、10日、東京・日比谷公園で開かれ、2日間で5万2030人のお客さまに会場いただきました。

持続可能な農業に向けた 全農の役割アピール

「AG/SUM2019」で講演や展示、どんぶり販売も

全農は11月18〜20日、東京・日本橋で開かれた、農業とテクノロジーをテーマとしたイベント「Agri tech & Foodtech Summit (AG/SUM・アグサム2019)」にJAグループ各連とともに協賛し、シンポジウムや展示を通じ、全農の取り組みを発信しました。【広報・調査部】



講演で全農の取り組みを紹介する山崎理事長

山崎理事長が講演と パネルディスカッション

山崎周二理事長が「農家に寄り添った、持続可能な農業への挑戦」と題し講演しました。協同組合における家族農業の経営モデルづくりの重要性を訴えるとともに、全農のさまざまな取り組みを紹介しました。

続くパネルディスカッションにも山崎理事長が登壇。事業承継や新規就農支援など、就農人口を増やす取り組みなどを紹介しました。

ワークショップでは 新規事業を紹介

18日にはJAグループ全国8連が共同で設立したイノベーションの拠点「Agventure Lab (アグベンチャー・ラボ)」の荻野浩輝代表理事が登壇し、スタートアップ企業をJAグループ各組織で支援するアクセラレータープログラムを紹介しました。さらに採択されたスタートアップ企業が事業内容をプレゼンしました。

19日は、エンビロテックジャパン(株)の塩釜和也ゼネラルマネージャーが過酢酸製剤について、続いて、続いてキヤノンメディカルシステムズ(株)の後藤浩朗部長がDNAチップを利用した



牛呼吸器病症候群の遺伝子検査について講演しました。

展示ブースでは 実機に注目

全農は、(株)安川電機のマト箱詰めロボット、NTT東日本と共同で実証実験中の

トマト箱詰めロボットやウェアラブル端末を展示したブース

キッチンカーで どんぶりを販売

ウェアラブル端末を展示。多くの来場者の興味を引きました。

会場前の広場にはキッチンカーを出店。JA全国女性組織協議会との共同企画で全国から集めた47都道府県のどんぶりのうち、高知県の「豚肉の生姜焼きどんぶり」を販売しました。また、来場者向けのお弁当としても提供。ジュシーな生姜焼き丼に、多くの方が舌鼓を打ちました。



生姜焼き丼を販売したキッチンカー。お昼時には行列ができました。



TACパワーアップ大会2019の受賞者



TACパワーアップ大会2019開催

取り組み共有と活発な意見交換でさらなるパワーアップへ

全農は11月14、15日、横浜市内で「TACパワーアップ大会2019」を開き、全国からTACやJA役員、担い手ら約550人が参加しました。

【耕種総合対策部】

TACパワーアップ大会2019受賞者一覧

JA表彰

岩手県	新岩手農業協同組合【全農会長賞】
兵庫県	たじま農業協同組合
福岡県	筑前あさくら農業協同組合
福岡県	福岡八女農業協同組合

TAC表彰

埼玉県	埼玉中央農業協同組合	宮澤 直樹 氏
石川県	石川かほく農業協同組合	松井 博暉 氏
滋賀県	グリーン近江農業協同組合	和田 洋 氏
滋賀県	グリーン近江農業協同組合	井口 太輔 氏
島根県	島根県農業協同組合	片寄 俊一 氏
島根県	島根県農業協同組合	山田 光俊 氏
佐賀県	佐賀県農業協同組合	川内 辰彦 氏
熊本県	本渡五和農業協同組合	山下 清弥 氏

担い手向けTAC通信表彰

新潟県	佐渡農業協同組合
滋賀県	東びわこ農業協同組合
滋賀県	北びわこ農業協同組合
兵庫県	たじま農業協同組合

大会宣言

我々TACは、
一、担い手の声に向き合い、JAグループの力を結集して応えます。
一、担い手とともに、活力ある地域づくりを目指します。
一、TACの輪を広げ、日本農業の未来を切り拓きます。

今大会は、「労働力支援の実践や農業ICTなど先進営農技術の導入等による農業生産の維持拡大」、「JAグループの総合力を発揮した担い手への総合事業提案」、「出向く態勢の拡充によるTAC活動の強化」をテーマに活動表彰や取り組み事例発表、分科会などを行いました。

表彰式では、全農会長賞のJA新しいわてをはじめJA表彰4JA、TAC表彰8人、担い手向けTAC通信表彰4JAを表彰しました。

事例発表では、「農家手取り最大化」の実践、新規作物導入による所得の増大、ZIGISによる圃場管理の効率化、GAPの認証取得支援、TAC通信を活用した情報提供など、担い手の課題解決に向けたさまざまな取り組みが紹介されました。

基調講演では、イタリヤ米の生産など新しい取り組みを積極的に展開する有限会社たけもと農場の竹本彰吾代表取締役が、「JAグループよ 日本農業の希望たれ」と題し、たけもと農場の

経営継承の経過や農業ICTを活用した経営の取り組み、またTACに対する期待について講演しました。

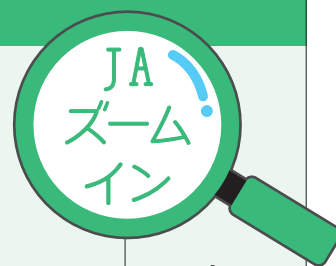
分科会では「TACの体制と人材育成」、「農業労働力支援」、「農業後継者の育成支援」、「担い手が求めるスマート農業」、「6次産業化」の五つのテーマで行い、全国農協青年組織協議会や全国農業青年クラブ連絡協議会、受賞JAにもご協力いただき、テーマについて熱心な議論が展開されました。



基調講演を行う有限会社たけもと農場の竹本彰吾代表取締役

全農では、今後もTACの活動を主力で支援していきます。

全国のTACが一堂に会し、日頃の取り組みを共有し、活発に意見交換を行うことによって、全国的な活動レベルの向上、取り組み意欲の向上につながる有意義な大会となりました。



省力化と産地拡大目指し

「ねぎ選果施設」が稼働

JAなすのは栃木県の北端に位置し、64万俵の米の集荷、「とちぎ和牛」の盛ん

な生産、園芸における多品目の独自ブランド化が特徴です。

省力化や規模拡大への貢献が見込まれる「ねぎ選果施設」

ネギの調製・選別・箱詰め作業を一手に引き受け

JAなすの管内では2019年8月5日、生産者の出荷調製作業の軽減と持続可能なネ

ギ産地の確立を目指すための「ねぎ選果施設」が竣工しました。同JAのねぎ部会は県内で生産量・作付面積・部会員数ともに最大規模を誇り、「那須の白美人ねぎ」は県内有数のブランド品となっています。

当施設は日量5・25ト（露地ネギ1050ケース）の処理が可能で、皮むき機や選別機、フィルム詰め機を



「難しい品種であるがゆえにやりがいを持って挑戦していく」と意気込んで作業を進める酒造好適米研究会の滝田会長

JAなすの（栃木県）



備えます。初年度は、管内で生産する2200トのうち

500トの出荷を見込みます（取り扱いの露地ネギのみ）。生産者は収穫後、畑で土を落としそのまま搬入できるため、個人での調製・選別・箱詰め作業を必要とせず、省力化や規模拡大への貢献が見込まれます。

栃木県オリジナル酒造好適米「夢ささら」栽培確立へ奮闘

同JAの酒造好適米研究会では栃木県オリジナル酒造好適米「夢ささら」の作付けが行われています。「夢ささら」は、代表的な酒造好適米「山田錦」並みの醸造適性を備える品種となるよう、2005年から県の農業試験場で開発が進められ

ました。

主な特徴として倒伏しにくい、「イネ縮葉枯病」への抵抗性が高い、「心白」発現率が高く削る際に碎けにくいため大吟醸に向いているといった点があります。

2年目となる今作では、8戸の生産者で合計15・7畝の作付けが行われました。栽培講習会や現地検討会を行い、より品質の高い酒造好適米の生産を目指し、日々研究を重ねています。

同研究会の滝田総会長は「天候に左右されやすく栽培方法が確立していない部分もあるが、切磋琢磨して技術の確立を目指す。難しい品種であるがゆえにやりがいを持って挑戦していく」と意気込みます。

概要		平成31年2月末現在
正組員数	1万2939人	
准組員数	8412人	
職員数	522人	
販売品取扱高	207億5千万円	
購買品取扱高	70億6千万円	
貯金残高	1697億1千万円	
長期共済保有高	5917億9千万円	
主な農畜産物	米、イチゴ、アスパラガス、ネギ、ウド、黒毛和牛など	

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜



果 実

主力産地は関東以西

概況

12月も先月に引き続き、パレシヨ・タマネギなどを除き、西南暖地と関東産地を中心に出荷されます。

キャベツは、愛知・千葉・神奈川などが中心の出荷となります。昨年は愛知で台風24号による被害がありました。今年は豊作傾向となっています。出荷量は、前年を上回る見込みです。

ハクサイは、茨城が中心の出荷となります。台風15、19号の影響がありますが、おおむね順調な生育となっています。出荷量は、前年並みを見込みます。

レタスは、茨城から静岡・兵庫・香川などに切り替わります。関東産地の切り上がりはやや遅く、西南暖地などの生育はやや干ばつ傾向ですが、品質良好です。出荷量は、前年並みを見込みます。

ダイコンは、千葉・神奈川などが中心の出荷となります。関東は台風後の曇天の影響から一部で遅れがみられております。一方で西日本産地は肥大が進み、出荷量は前年並みを見込みます。

ニンジン、は、千葉・埼玉などが中心の出荷となります。一部産地で台風被害がありましたが、生育は回復しています。総体の出荷量は、豊作だった前年よりやや少ない見込みです。

トマトは、熊本・愛知・静岡などが中心の出荷となります。九州は定植遅れがありましたが、生育良好であるため、回復傾向にあります。出荷量は、前年並みを見込みます。

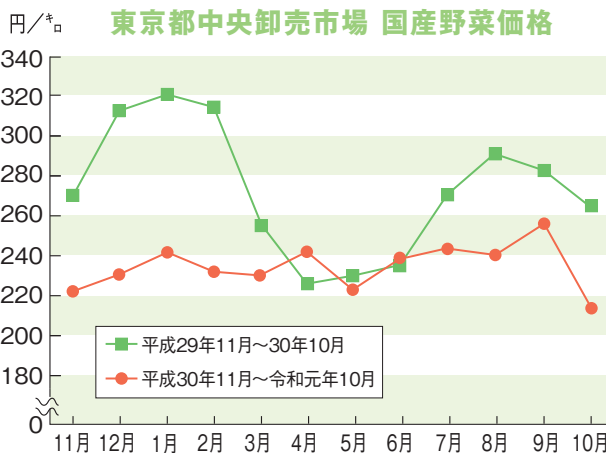
キュウリは、関東産地・西南暖地が中心の出荷となります。関東は一部切り上りを迎えますが、西南暖地は順調な生育となっています。出荷量は、前年並みを見込みます。

タマネギは、北海道が中心の出荷となります。出荷量は、不作だった前年を上回る見込みです。

パレシヨは、北海道・長崎からの出荷となります。出荷量は、不作であった前年を上回る見込みです。

店頭

今月は特に、下旬にかけて冬至・クリスマス・年末商戦と売り場が活発に展開されます。冬至にはユズ・カボチャ・鍋物野菜・煮物野菜を中心に、クリスマスにはレタス・トマトなどの洋風の野菜を中心に、また年末には金時にんじん・三浦だいこん・クワイなど、この時期しか見かけない正月料理用の野菜も多数陳列され、野菜売り場が活気付きます。



ミカン・リンゴ・イチゴの最需要期

概況

12月はミカン・リンゴ・イチゴが最需要期に向けて各産地から出回ります。

ミカン類は、愛媛・長崎・熊本などが中心の出荷となります。早生種に加え、中旬からは中生種の出荷も徐々に始まります。早生種以降、糖酸バランスも向上しており、出荷量は台風により少なかった前年を上回る見込みです。

リンゴは、青森・長野などから「ふじ」を中心に出荷されます。青森がやや小玉傾向、長野が気温高による着色遅れ、台風の影響があり、出荷量は前年をやや下回る見込みです。

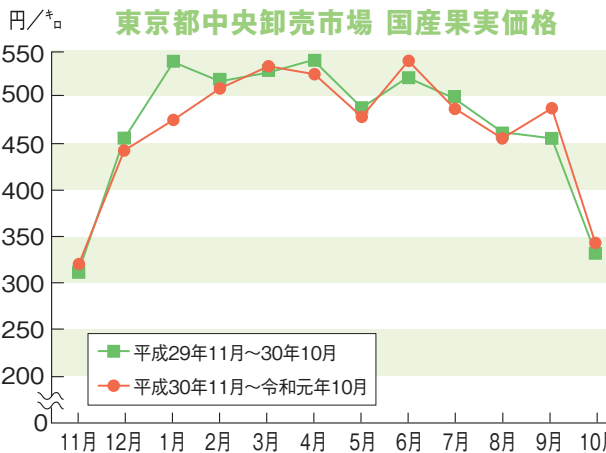
柿は、福岡・奈良などが中心の出荷となります。「富有」は着色遅れのため、上旬まで露地物の出荷が続きます。中旬以降は貯蔵物の出荷が始まります。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

イチゴは、栃木・福岡・佐賀・静岡などが中心の出荷となります。東日本の産地は台風により作業遅れが発生し、出荷も遅れていましたが、11月の好天により着色が進んでいます。12月の出荷量は前年並みからやや下回る見込みです。

西洋梨は、山形の「ラ・フランス」は肥大状況が良く、新潟の「ル・レクチエ」も台風被害があったものの、生育は順調です。出荷量は、前年並みからやや上回る見込みです。

店頭

12月は冷え込みが厳しくなり、冬至・クリスマス・大晦日などのイベントが連続することなどにより、家にいる機会が多くなり、ミカン・リンゴ・干し柿の需要が多くなる時期となります。また、クリスマスに向けてはイチゴを中心に果物売り場が展開されます。



主産県
だより

11月は、イチゴ、レタス、ブロッコリー、トマト・ミニトマトの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に関き、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

「旬鮮倶楽部」2020年度 お申し込み受付中

全国の旬のおいしさを毎月お届け

くらし支援事業部が取り組む頒布会事業「旬鮮倶楽部」は、2020年度の申し込みの受付を始めました。
【くらし支援事業部】

全国各地の旬の果実などカタログからお選びいただいた商品を、毎月ご家庭まで産地直送でお届けします。

ご家族団らんのひととき、また大切な人を想い商品選びを楽しめることも特長です。母の日やクリスマス、お中元といった歳時企画も充実しており贈答用としてもご利用いただけます。

2020年度(4～3月お届け)のご注文を2020年1月末まで全国のJAで受け付けています。皆様のご利用をお待ちしております。

※一部取り扱いのないJAもございます。



旬鮮倶楽部は旬を大切に日本の食卓へ旬の味覚をお届けする頒布会です。
JAグループが厳選した商品から毎月1品お選びいただき、旬に合わせてお届けします。

**2020年度
お申込受付中**

お問合せ・お申込みは、お近くのJA(農協)へ

全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

12月14日放送のプレゼントは、岩手県産リンゴ「いわて純情 冬恋」(約2.5kg、9～12玉)を3名様に。「冬恋」は岩手県生まれの品種「はるか」から、蜜が多く、糖度の高い果実だけを選抜したブランドです。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは12月14日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

こちらの商品はJAタウンからご購入いただけます。

JAタウン <https://www.ja-town.com/shop/c/c2101/>
(ショップ名: いわて純情館)

JAタウン
ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

かが・のと味自慢 (JA全農いしかわ)



JAタウンは
こちらから



能登志賀ころ柿(干し柿)＝緑秀2L
またはL＝1箱……5580円

“能登志賀ころ柿”は「鮮やかな^{あめいろ}飴色」と「果肉の緻密さ・柔らかさ」が特徴で、古くから地元をはじめ多くの人々に親しまれた一品です。

平成28年からはその商品性の高さと地元根付いた歴史・伝統が高く評価され、地理的表示(GI)保護制度に基づき、地域で育まれた伝統と特性を有する産品として登録も受けております。

ご自宅用はもちろんのこと、お歳暮や冬のギフトにも最適の“能登志賀ころ柿”。

旬の食材をぜひこの機会に一度ご賞味ください!!

この他にも石川県産の農産物や特産品を販売していますので、サイトをチェックしてみてください!

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <https://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。